

自由に使える読書感想文使用条件

① コンクール・コンテスト等の応募には使用しないこと。

② 学校提出用に限リ著作権フリー、そのまま使ってもいいし、手を加えるのも呉とします。

③ パクリ・コピーがばれても、自己責任（悪いのは自分）とし、センセイに思いつきりしかられること。

④ パクリ・コピーがばれるかどうか不安ならば使用しないこと。

⑤ パクリがばれそうになったら「これはオリジナルだ！」と最後まで言い張る根性を見せること。

⑥ 他のホームページに掲載しないこと。

⑦ 他のホームページから読書感想文へ直リンクしないこと。

⑧ 「読書感想文」から解放された時間で夏休みのできる思い出を作ること。

『カブトムシとクワガタ―見つける・  
 育てる・観察する』を読んで  
 五年一組 ●●●●  
 去年の夏は悲しかった。  
 田舎のおじいちゃんが、裏山で捕ってきて  
 くれたカブトムシを、二週間で全滅させてし  
 まったからだ。やっていたし、大切に育て  
 ている。しかし、カブトムシは死んでしまっ  
 た。かわいそうと思う気持ちと、せっかく捕  
 まえて、送ってくれたおじいちゃんに悪いこ  
 とをした、そんな気持ちでいっぱいになった。  
 今年もおじいちゃんはカブトムシを送って  
 くれた。クワガタも入っていた。去年のよう  
 にすぐに全滅させるようなことにだけはしな  
 いようにしよう。あんなに悲しく、つらい思  
 いをするのはもういやだ。  
 お父さんもカブトムシを全滅させたことが  
 気になっっていたようだ。会社の帰りに『カブ

トムシとクワガタ―見つける・育てる・観察  
する』という本を買ってきてくれた。  
何がいけなかったのか、どうして二週間で  
全部死んでしまったのか、お父さんと二人で  
本を読みながら調べた。  
その日は金曜日だったこともあるが、気が  
ついたときには午前一時を過ぎていた。こん  
な遅い時間まで、お父さんと一緒にカブトム  
シの研究をしたことで、少し大人になったよ  
うな気分だった。  
去年失敗した原因の一つは、えさにあった  
スイカの残りをやったが、水分が多いのでカ  
ブトムシがおなかをこわしてしまわらしい。  
果物をえさにするならば、リンゴやバナナが  
いいそうだ。カブトムシ専用のえさも売って  
いる。今年はそのれを使うことにしよう。  
もう一つは暑いところに置いたのもよくな  
かった。カブトムシは夏の昆虫だから、暑い  
方がいいと思っただが、それは間違いだった。  
部屋の涼しいところに置くようにしよう。

さらに、一つのケースで、カブトムシをた  
 くさん飼ったのもいけなかった。一つのケ  
 スにオス一匹、メス一匹で育てるのがよいと  
 いうことだ。  
 今年は失敗しないように、専用のえさと、  
 カブトムシとクワガタそれぞれの飼育ケース、  
 ケースの床に敷く発酵マットを近所のペット  
 ショップで買った。そして、本に書いてある  
 ように飼育ケースの中を整え、涼しいところ  
 に置いた。あとは本を読みながら育てれば、  
 去年のような失敗はしないだろう。  
 さて、夏も終わりになったが、カブトムシ  
 もクワガタもまだ元気で生きている。  
 おかげで今年は「カブトムシとクワガタ、  
 どうもありがとう。今も元気に生きていま  
 す」と、おじいちゃんに手紙を書くことがで  
 きた。去年は「カブトムシありがとう」とだ  
 けしか書けなくて、申し訳ない気持ちだった。  
 カブトムシは一年で死んでしまう昆虫だが、  
 夏の間、精いっぱい生きてくれた。あと何日

生きていられるか分からないが、それは生き物が持つ寿命だ。仕方がない。

しかし、ぼくにはカブトムシの命をつなぐこと、カブトムシが産んだ卵をふ化させ、来年、成虫となる子どもたちの世話をしてあげる義務がある。子どもたちを育てられる楽しみもあるが、しつかりと育てなければならぬ責任もある。

クワガタは、来年も元気な姿を見せてくれるように、秋になってからもしつかりと管理をしなければならぬ。きちんと育てれば、あと一、二年くらい生きられると本に書いてあった。

カブトムシのふ化も、クワガタの越冬も今年がはじめてだ。うまくいくかは分からない。だが、生き物を飼ったら、最後まできちんとして育てるのが飼い主のつとめだ。カブトムシやクワガタも尊い生命にかわりはない。

カブトムシとクワガタの飼育は夏が終わってからも続く。